

## 区民と区長のタウンミーティング概要

日 時	令和元年5月14日(火) 19時から20時30分
会 場	区役所 第8, 9, 10会議室
テ ー マ	新しい基本構想について「自治・共生・活力」
出席者 区 民	計 18人
区 側	区長 企画部基本構想担当課長 企画課長 文化・国際交流課長
事務局	企画課職員4人、広聴広報課職員1人、文化・国際交流課職員1人
一 時 保 育	無
手 話 通 訳	無

テーマ「新しい基本構想について「自治・共生・活力」

区長あいさつ

現在、区では基本構想を改定するにあたり、有識者や区民の代表から構成される審議会を立ち上げたところである。これとは別に、皆さんのいろいろな意見を伺いながら基本構想を改定するため、月2回行っているタウンミーティングをしばらくは基本構想をテーマに実施する。

今日のテーマは、自治・共生・活力で難しいテーマである。自治では、区には自治基本条例があり、大きな計画や広く区民に義務を課し、又は権利を制限するものに関する条例を決めるときには必ず意見交換会を行う、そして、パブリックコメントを行い、広く意見を募って最終的に議会で議決を行うというプロセスを踏んでいる。パブリックコメントでは、寄せられる意見の数があまり多くない傾向が窺えることもあり、計画の策定段階から広く皆さんの意見をお聞きするための工夫が必要であると実感している。また、今後、外国人が増え、多様な人たちの間で、価値観も多様化する中で、中野区政の方向性を決めて、進めていかなければいけない。合意形成が難しい時代だと思う。

共生でいうと、区では、外国人が増えている。ここ5年で、2万人と倍に増え、これからもっと増えると言われている。改定する基本構想では、共生が、新たなキーワードになると考えている。

活力では、区には文化担当課が10年以上無かった。中野には、たくさんの人が文化活動をしており、それらが集まり中野のまちができていていると思ひ、文化振興にしっかり取り組もうとこの4月から文化担当課をつくった。

基本構想というのは、中野の10年後が、どのような世界、社会であってほしいかを描くものである。10年後に目指す方向は何かということのみなさんとともに考えたい。

各グループの発表概要

■自治・共生について

- ・二元代表制の補完作用ということでタウンミーティングを実施し、その意見をきちんと反映するシステムを作してほしい。
- ・単身者で仕事をしている若い人が中野区では増えている。その人たちと区とのパイプが非常に弱く、区の力になりえていない。何かアクションを起こすことが必要である
- ・町会に様々な仕事がおりにくるが、高齢化してやりきれない。地域では町会を活性化したいし、区の協力もほしい、若い人も入ってほしいが、町会だけではむずかしいのではないか。
- ・町会以外でも、地域活動に参加できる場を作ると良い。若い人や子育て中の人に参加しやすいグループとかいろいろなグループが地域で意見交換していくことが地域活動の参加に繋がる。
- ・若者や、子育て世代、高齢者世代など世代ごとに集まって、意見をまとめる。外国の人だけで集まって区政に何を望むか話し合っても良いのではないか。
- ・自治会、町会では、新しいマンションが増える状況でつながりきれない状況がある。
- ・転入したとき、区の手続き時に、地域のことに関して説明がなかったのも、つながりをもてなかった。あたらしく来た人への情報提供の方法を考えなければならない。
- ・外国からこられた方には、文字の学習の機会を増やす必要がある。
- ・ハンディキャップのある方々が、もっとまちなかに出られるようなまちにすることが必要である。

■活力について

- ・時代の趨勢で家で仕事をする人がいる。ワークスペースが公共施設にあると若い人がそこに集まって何かしらの動きがあるのではないか。区民活動センターや産業振興センターでやってはどうか。
- ・保育園、学童保育は、インフラの絶対数が足りない。町会や区などの周りのサポートがなく、実際に困っている人が多い。
- ・地域の賑わいの創出について、サンプラザであったり、ブロードウェイであったり、中野にあるものを前面に押し出すことができればよい。

- ・活力を生むには需要が増えることが大事である。中野で需要が増えるといえば子ども、子育て世代が増えることがひとつあるのではないか。子ども子育て世代が住みやすくすることが大事である。
- ・わざわざ中野に来てもらうには中野の魅力をくっきりさせる必要がある。それは商店街のごちゃごちゃした感じ、サンモールみたいなごちゃごちゃした感じが良いのではないか。都会でも田舎でもないごちゃごちゃした感じに惹かれるのではないか。
- ・教育では、私立中学にみな行ってしまうのではなく、公立中学に行くように公立中学を魅力あるものにすることが必要ではないか。
- ・社会教育の充実という面で図書館を大事にしてほしい
- ・中野の私たちがエネルギーを作ってそれを使っていく中でまちなかでお金をまわすことが大切ではないか。エネルギーの地産地消をしてはどうか。
- ・中野の伝統文化はハイレベルなので、それを活かして、活力を取り戻してはどうか。

## 発表に対する区長のコメント

### ■自治・共生について

- ・タウンミーティングについて  
区民の意見を聞くチャンネルはいろいろ合ってよい。私だけでなく、区の職員がいろいろな場所でみなさんの意見を聞いて、それを施策に反映させていくのが私の理想である。
- ・若い世代と区のつながりについて  
これから中野の活力を上げていくには、若い人へのアプローチをどうしていくかということが大切である。他の自治体では、20代、30代の若者議会をやっているところがある
- ・町会について  
町会は、役員が高齢化して、10年後、20年後の存続が危ぶまれると思う。そのとき、地域のことは誰がやるのかということは、基本構想の改定のなかで話し合わなければならない。町会だけでは担いきれない地域に、その他の担い手が必要になり、それが誰なのかということを考えていかなければならない。
- ・マンションについて  
中野は、マンション棟数の面積当たりの密度が23区のなかで高い方であり、マンション住民と自治とのつながりをどうするかは、中野の課題と言える。条例を含めて考えていかないといけない。
- ・ハンディキャップのある方との共生について  
ハンディキャップのある方についてのまちづくりは、これからの課題として取り組んでいきたい。

### ■活力について

- ・ワークスペースについて  
中野坂上に新たに建設する複合施設に、300席ぐらいの閲覧席がある図書館をつくる。ワークスペースや学習する場となる。
- ・保育園について  
全体の定員は増えているけれども、それでも追い付かない状況である。
- ・サンプラザについて  
サンプラザは、基本構想の期間である10年後のことを考えると、50年を超過することになる。インフラをだましまし使っている状況であり、修繕をすると莫大な費用がかかり、採算が合わない。
- ・子育て世代について  
子育て世代を増やさないといけない。中野で育って、グローバル化で大学を卒業したら世界で活躍する子供がたくさんいると思うが、いずれは中野に戻ってきてほしいし、その子育てが終わった親御さんたちが、今度は中野の自治の担い手として活躍してほしい。子育て世代を増やしていかないと中野の未来は無いと思っている。
- ・伝統文化について  
中野は、文化が豊かな区である。見せ方を工夫することで、文化が豊かな区だと見せることができると思っている。多様性にあふれる文化があるので、しっかり取り組んでいきたい。